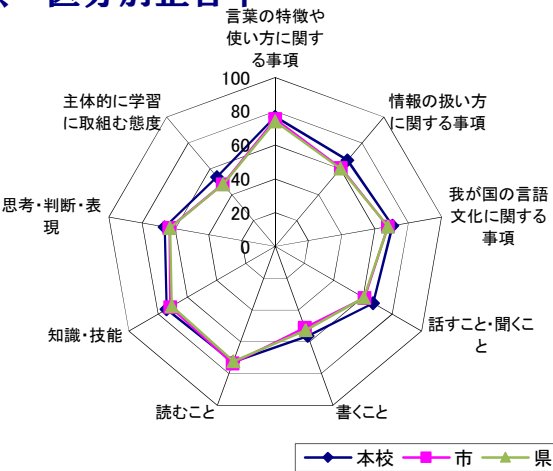


宇都宮市立横川東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.8	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	66.7	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	70.5	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	67.0	61.0	60.7
	書くこと	56.3	51.2	52.8
	読むこと	72.8	73.7	72.4
観点	知識・技能	74.2	71.7	70.6
	思考・判断・表現	66.4	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	53.6	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

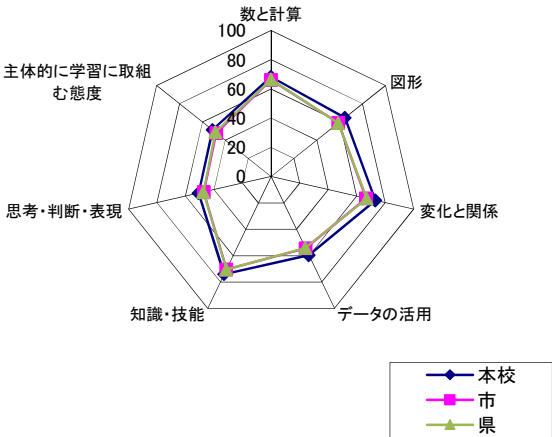
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市や県の平均をやや上回っている。 ○漢字の読み書きについて、平均正答率が県とほぼ同じか、設問によっては上回る結果となった。漢字オリンピックや50問テストなど、既習漢字の定着に向けた取り組みの成果だと考えられる。 ●連用修飾語について、平均正答率が県とほぼ同じものの、24.1%と低い。文の中の単語のまとまりやつながりを正しく捉えられていない児童が多い。	・漢字オリンピックや50問テスト、小テストなど既習漢字を図る取り組みを継続させると同時に、日常の中で児童が文を書くときに漢字を意識的に使うことができるよう、日頃から指導していく。 ・文の中の主語・述語を明確にしなが、読んだり書いたりすることを通して文の構成に着目させることで、修飾語についての理解が深まるようにする。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市や県の平均を上回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約する問題について、平均正答率が県の平均より8ポイント以上上回っている。 ●調査の結果をもとに話し合う内容の問題では、理由や事例などを挙げながら話す問題が、県の平均はやや上回っているものの、正答率は42.9%と低く、無回答率も12.5%と高かった。	・目的に応じて情報を収集・要約する力をさらに伸ばすために、今後も児童が主体的に課題解決をする授業を展開していく。 ・児童が自分の考えに理由や事例を加えて話すことができるよう、多面から思考するための資料等を授業の中で提示していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市や県の平均をやや上回っている。 ○ことわざについての問題では、平均正答率が県を上回っており、理解している児童が多い。 ●ことわざの知識に限らず、言葉の意味を正しく捉えられていない児童もいる。	・児童がいつでも知りたい言葉について調べられるよう、辞典など学習環境を整えると同時に、一人一台端末の活用も推進する。 ・我が国の言語文化に親しみがもてるように読書と関連付けるなどして指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県の平均を上回っている。 ○話し合いの内容を聞き取る問題について、話し手が伝えたいことの中心捉えることや、話し手の工夫を捉える問題で、平均正答率がそれぞれ約90%と高い。 ●調査の結果をもとに話し合う問題では、平均正答率が県の平均を上回っているが、正答率は低い。自分の考えをまとめて理由や事例を挙げながら話すことに苦手な傾向がある。	・意見を延べるときに、相手を意識して分かりやすい伝え方を工夫したり、理由を付けて話したりすることを継続して指導する。 ・理由や事例を加えながら自分の考えをまとめられるよう、話し合い活動を行う前には、児童が十分に考える時間を確保するようにする。
書くこと	平均正答率は、市や県の平均をやや上回っている。 ○指定された長さで文章を書く問題の平均正答率は71.4%と県の平均を9.4ポイント上回っており、文章を書くことに慣れている児童が多い。 ●指定された長さで文章を書くことができるが、文章の構成を意識しながら、事実と自分の考えを分けて書くことには課題がある。	・学習のまとめや振り返りを通して、自分の考えをまとめる活動を積み重ねることにより、自信をもって文章を書くことができるようにする。 ・伝えたい内容について、どのように段落を分けて文章にしたらいかを具体的に教師が例示するとともに、事実と自分の考えを分けて書くことができるよう、文章の構成について、きちんと整理してから書くよう指導していく。
読むこと	平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。 ○説明文の内容を読み取る問題において、筆者が伝えようとする内容を読み取る問題では、平均正答率が県を上回っている。説明文の内容を、叙述を基に、中心となる語や文を見付けながら捉えることができている。 ●物語文を扱った問題では、どの設問も平均正答率が県より下回った。登場人物の気持ちや情景を読み取ることに課題が見られる。	・読書の時間を充実させたり、新聞記事や資料等を読む機会を設けたりして、読解力の向上を図る。 ・物語文について、叙述を根拠にして登場人物の気持ちの変化やそのきっかけとなった出来事などを読み取る練習をすることで、心情を正しく理解できるようにする。

宇都宮市立横川東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.2	66.1	66.4
	図形	64.5	58.9	58.8
	変化と関係	73.2	66.6	67.0
	データの活用	59.6	54.4	54.2
観点	知識・技能	74.1	70.4	70.6
	思考・判断・表現	50.9	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	51.3	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

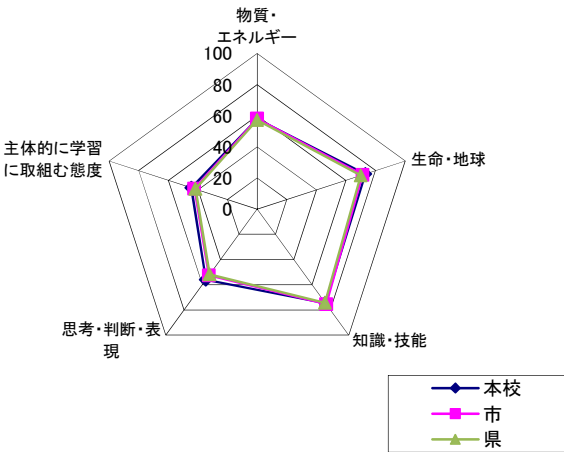
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。 ○小数や分数の表し方を知り、割り算の計算をする設問については、平均正答率を上回っており、計算のきまりや方法を理解し、正確に商を求めることができることを示した。 ●「分数」の整数、仮分数、帯分数、真分数の大小比較の設問の平均正答率については、県を下回っていた。 ●「億と兆・がい数の表し方」の設問については、県の平均正答率とほぼ同じであるが50%と低く、数の相対的な大きさについての理解に課題がある。	・今後も更なる計算力の向上を図るため、計算のきまりや方法についての指導を丁寧に行い、確実に定着させた上で、反復練習を継続的に行う。 ・概数についての既習事項を振り返り、改めて意味や表し方について指導することで理解させ、概数を扱った多様な問題に取り組ませる。
図形	平均正答率は、市や県の平均を上回っている。 ○「角の大きさ」の設問については、平均正答率を上回っていて、特に、360°より小さい角の大きさの求め方を理解していることを示した。 ○「面積」の複合図形で、面積の求め方や式を表した図を選ぶ設問についての平均正答率は、県を6.6ポイント上回っている。 ●「面積」の教室のおよその面積についての設問についての平均正答率は、県と比べて大きく上回っているが、47.3%と低い結果が出ていて課題がある。	・面積の単位の間隔を理解し、説明できるように実際に単位の関係について実物等を使って確認し、実感が伴った学習ができるようにする。 ・多角形の角の大きさを求める学習に入る前に、改めて既習事項を振り返らせることで、それらを応用しながら取り組めるようにする。
変化と関係	平均正答率は、市や県の平均を上回っている。 ○簡単な場合についての割合の設問については、県の平均正答率を上回っていて、2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったのか考えて比べることができている。 ○伴って変わる2つの数量の関係を式に表す設問については、平均正答率が、66.1%と低い県県の平均正答率を14ポイント以上大きく上回っている。	・普段の授業の中で、問題文から読み取ったことを自分のノートに図や表、数直線などに表して、2つの数量の関係を視覚化できるよう指導していく。 ・変化の特徴を捉え、式に表すことはできていたが、そのどうしてその式になったのか説明することに課題がある。ノートに自分の考えをまとめたり、友達に説明したりする活動を多くを取り入れ、自分の考えを説明する力を伸ばしていきたい。
データの活用	平均正答率は、市や県の平均を上回っている。 ○折れ線グラフと表の設問について、県の平均正答率を上回っていて、折れ線グラフから変わり方を読み取ることができていることを示した。 ●二次元表から読み取ったことを根拠に、求め方を説明する設問の正答率については、県よりも平均正答率は上回っているが、26.8%と低い。また無解答率が16.1%と高いため、児童が苦手意識を抱いており、課題がみられる。	・折れ線グラフ等のグラフから読み取る問題を引き続き復習させることで、さらに技能を向上させていきたい。また発展問題として、読み取ったことを根拠に考えを説明する問題に取り組む機会を増やしていく。 ・自分の言葉でなかなか説明ができない児童に対しては、選択式や穴埋め式の問題などから取り組ませ、段階的な指導を行っていく。

宇都宮市立横川東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	57.8	58.1	57.2
	生命・地球	73.1	71.1	70.0
観点	知識・技能	74.6	75.5	74.4
	思考・判断・表現	56.1	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	44.5	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均と比べ、やや下回っている。 ○「電気のはたらき」に関する問題では、選択・記述式を問わず正答率が県の平均正答率を上回っており、電気のはたらきについて理解し、回答することができた。 ●「物の体積と温度」では、温度による物や空気の体積の変わり方する問題で県の平均正答率を下回っている。知識を問う基本的な問題から県の平均正答率を下回っていることから、物の体積と温度の関係についての理解に課題がある。 ●「水のすがた」では、湯気が液体であるかどうか問う問題は正答率が8%未満と県の平均正答率を下回っている。水を熱したときの温度変化を表す折れ線グラフの読み取りにおいて正答率が35%未満になっている。	・学習したことが十分に定着していない内容があると考えられる。そのため、授業の中で、これまでの学習を振り返る時間を設定し、学習内容の定着を図る。 ・授業で行った実験や観察の結果と生活の中で起こる自然現象を結び付けて説明することが難しかったと考えられる。導入で身近な自然現象を扱ったり、結果をもとに根拠を示しながら考察したりする授業を行っていく。 ・記述形式で解答する問題に課題があることから、考察や振り返りを児童の力で書く時間を授業内で確保する。
生命・地球	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○「動物のからだのつくりと運動」では、腕を曲げたときのき筋肉の様子についての問題で県の平均正答率を13ポイント上回り、動く筋肉の様子を理解し、回答することができた。 ○「月と星」では、星や月の見え方や動き方についての問題で県の平均正答率を上回っており、時間経過に伴う天体の動きについての理解している。 ●「天気の様子と気温」では、記録温度計の記録から天気の変化を推測したものを記述する問題で正答率が42%と低い。	・学習したことが十分に定着していない内容があると考えられる。そのため、授業の中で、これまでの学習を振り返る時間を設定し、学習内容の定着を図る。 ・授業で行った実験や観察の結果と生活の中で起こる自然現象を結び付けて説明することが難しかったと考えられる。導入で身近な自然現象を扱ったり、結果をもとに根拠を示しながら考察したりする授業を行っていく。 ・授業で実験を行った問題については、正答率が高い傾向にあった。多くの実験や観察を行うことで、学習内容の定着や理科への興味関心を高めていく。

宇都宮市立横川東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」と「勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある。」と回答した児童の割合は90%以上で県の平均を大きく上回っている。学習に対して意欲的な姿勢が見られる。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」と回答した児童の割合は82.1%で8割を超えており、「授業では、自分の考えを話す機会が与えられている」と「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」と回答した児童の割合も8割を超えており県と市の平均を上回っている。自分の考えを説明したり少人数で話し合ったりする活動を効果的に取り入れる授業づくりを行ったことにより、効果が現れていると考えられる。今後も、一人一人の意見をつなぐコーディネートに留意した話し合いの充実に努めたい。

○授業では、「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されている」と回答している児童の割合は98.2%で昨年を8%上回り、市や県の平均を大きく上回っている。「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめが書いている」と回答した児童の割合は市や県の平均を上回っている。学校全体で取り組んでいる主体的に学びに向かうための手立てとして行われていることが定着しつつあると考えられる。今後も意識して継続していきたい。

○「自分には、よいところがある。」と回答した児童の割合は87.6%で県の平均を大きく上回っている。また、「自分の行動や発言に自信をもっている」と回答した児童の割合は68.7%だが県の平均を9.4%上回っている。児童を認め励ます教育を推進するとともに、友達のよさを伝え合う活動を実施してきたことで自尊感情が高められている効果が現れていると考えられる。今後とも、学校と家庭が連携して児童の努力や成長を見守り、よさを伸ばす指導を推進していきたい。

○家庭生活では、「家の人と学校のできごとについて話をしている」と回答した児童の割合は91%で市や県の平均を大きく上回っている。「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「家の人と学習について話をしている。」と回答した児童の割合は、市や県の平均を大きく上回っている。

●「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている。」と回答した児童の割合は60.7%で市や県の平均をやや下回っている。家庭学習の時間や方法・内容など個人差に応じたアドバイスや、家庭との連携などが大切だと考えられる。

●「わからない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている。」と回答した児童は6割程度、「理科の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できていないか考えている。」に対して肯定的に回答した児童も6割程度と課題が見られる。授業での個人やグループによる調べ学習の機会を増やし、様々な考えを提示しながら、共に学び合うことができるような学習の場の工夫に取り組んでいきたい。

宇都宮市立横川東小学校 (第4・5学年共通)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本の確実な定着	・「朝一学習」(月・水・金：読書、火：国語、木：算数)の実施。 ・学期ごとの漢字計算オリンピックの実施。 ・パワーアップシート等の教材の効果的な活用。	4年生、5年生の3教科の基礎分野の平均正答率は、市と比べてほぼ同じであった。
・主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善	・主体的対話的で深い学びの達成のための「めあてや見通し、見方・考え方、振り返り」などの授業改善の視点の共通理解と実践、計画的な校内研修の実施。振り返りの視点の共通化	・学習と生活のアンケートから、学習に対して「自分から進んで取り組んでいる」と答えた児童の割合は、4年生で74.5%、5年生で67.1%と学年間で差がある。 ・「授業の中で目標が示されている」は、4年生で92%、5年生で98.2%で県の平均を上回っている。 ・「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」と答えた児童の割合は、4年生で81.4%、5年生で82.1%で県の平均を上回っている。
・思考力・判断力・表現力の育成	・自分の考えを書く活動の習慣化と自分の考えをもたせるための支援 ・ペアやグループ、全体での学び合いの場の設定の工夫	・「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と答えた児童の割合は4年生72.6%、5年生55.4%で学年間の差が大きい。また、「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを広げたり深めたりすることができる」と答えた児童の割合は、4年生で73.5%、5年生で80.4%であった。
・家庭学習の習慣化	・本校独自の「家庭学習の手引き」を活用した、発達段階に応じた適切な課題や量の調整と計画的な家庭学習の推進	「家で、学校の宿題をしている」と答えた児童の割合は、4年生で94.6%、5年生で100%と両学年ともに高い。しかし、「家で自分で計画を立てて、勉強している」と答えた児童の割合は、4年生で64.6%、5年生で77.7と学年間の差が大きく開いた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・2段落構成で書くこと、自分の考えとそれを支える理由を明確にして書くこと、事実と自分の考えを分けて書くことの問題の正答率が低い。	・自分の考えを書く活動のさらなる充実	・段落などの基礎的事項の復習と段落構成などの条件に合わせて書く活動の充実 ・付箋やメモ等を使って事実と感想、意見、理由などを分けて書く活動などの授業における具体的な支援 ・書いた文章を互いに読み合い評価する活動の充実 ・家庭学習の機会を活用した定期的を書く活動の充実